

第 212 回 日本知能情報ファジィ学会 理事会議事録 (第 14 期第 5 回)

日時：2016 年 1 月 31 日 (日) 13:00~18:00

場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス来往舎 小会議室

出席者：萩原 (会長)、林 (副会長)、中川 (副会長)、堀口 (事業)、川本 (会誌)、
三河 (広報)、片上 (将来構想・他学会連携)、橋山 (大会事業)、
伴 (賞選考・女性会員)、星野 (電子化検討)、金久保 (会計)、井上 (会計監事)、
徳丸 (事業監事)、彌富 (庶務) (敬称略)

(敬称略)

議題

1. 議事録の承認 (資料 212-0: ML にて承認済)

異議なく承認した。

2. FSS および SCIS の投稿サイトについて[継続・報告] (資料 212-1: 星野)

(背景：現在は会員 DB が旧 SNS システムにあり、PayPal のシステムも統合されている。すべての処理 (新規入会、更新、FSS 参加登録) はこのシステムで行われ、手続き申請が web 上で行われるとこのシステムで処理され、事務局に情報が自動で届く。そのため、事務局ではシステムにログインして、内容の確認 (請求書、領収書など) だけして郵送していた。なおこの DB のバックアップは事務局が手動で同期作業を行っている。)

<FSS,SCIS,IFSA 参加申し込み・論文投稿サイトについて>

- ・ FSS はアトラス社のシステムを利用して会員 DB を含み、FSS2017 までには新構築。年会費のシステムは別にする。
- ・ SCIS2016 は投稿システムに EDAS を利用だが、登録料処理は EDAS はやりにくいため (支払いが日本の業者なのにすべて英語など)、北海道の産経海外旅行社を利用。(星野、金久保)
- ・ IFSA2017 は、カード払いの決済については京王観光、それ以外は EDAS になった (金久保) と報告があった。
- ・ FSS のシステム新設に合わせて SCIS のシステムと統合することも再度検討されたが、質の違い (SCIS は査読システムが必要など) があるため、別システムとする。
- ・ 元の PayPal システムは期限を区切って、新システムに移行させる。
- ・ FSS における拡大理事会くらいまでに、担当する業者などを決め、総会の事業計画で報告、評議会で意見を聞くことになった。

議論の内容は以下の通り：

(星野) (すべてを行っている) 現在のシステムが古くなってきているので更新する必要がある。ただしすべてを一気に更新するのは困難。銀行振り込みと、クレジットカード決済は両方準備する必要がある。クレジットカード決済の場合、merchant (事務担当) を新しく1人 (現在はカラーチップス) を立てる必要がある。

(林) 年会費と FSS の処理方法を別にしてもいいのでは？まず FSS だけ別にしてから年会費システムを移行させる→ 星野同意

(星野) Paypal は操作が面倒、ほとんどの大学によって対応不可であること、また要件により課税、非課税の違いがあるため、事務局で個別対応する必要があるなど困難があるため、できればクレジットカード代行業者に委託する方針に変更したい。その場合、会員 DB との連携がない、事務局での (今まで一部自動だったものが) 手作業になるなどの追加負担が必要になるが、事務局には現システムの DB と動機している独自 DB があること、また事務局の意見として、「対応できなくはない」とのコメントから、クレジットカード代行業者への移行は現実的。ただし、理事会として新規会員用のフォームの作成、インタフェースの作成、事務局のミスが起こりにくくなる仕組みの構築を行う必要がある。

(星野) FSS 登録は、現在会員 DB と紐付けされている。手作業はできるだけ避けるべきで、今後クレジットカード決済と、会員 DB のシステムを別にする必要がある。DB は FSS 側にして、年会費システムとは別にする。

(徳丸) 同意。会員登録しないと FSS に申し込めない。先に登録は行う必要がある。

(三河) カラーチップス社を引きずらず、新しく作ったらいいのでは？

(中川) お金が決まれば方針が決まるのでは？ ロボット学会は web 申し込みはない。

(星野) クレジット会社 (の手数料は) 1 回入金で 1000 円程度

(中川) ペイパル (の手数料) は扱う額の 3.78%

(星野) アトラス社の投稿システムも同程度の手数料

(星野) FSS2017 までには、新システムに移行させたい。実際の webpage と ML は新サーバに移行させていく。

(徳丸) FSS のシステムを新しく作るときに、SCIS で使えるように設計すればいいのでは

(星野) これまで同様の議論もあったが、うまくいかなかったのは FSS と SCIS がかなり違って1つにするのが難しいから。

(林) SOFT として、FSS (国内) と SCIS (海外) があるが、SCIS はその運営委員会が詳細を決めるため、求められるものが回のたびに変わる可能性がある。

学会として準備できればもちろんいいのだが、将来の SCIS の仕様の変更の可能性を考えると統合はやらない方がいいのでは。

(堀口) 年会費の支払いで paypal をなくすと簡単になる。

(星野) しかし Paypal の利用は一定数あるため、元の Paypal システムについて期限を区切って、新システムに移行させる。

<SOFT メーリングリストと学会 HP について>

低価格の Web サーバ (メールサーバつき) で現ドメインを継続

(星野) アトラス社のシステムは、細かく設定できて次年度に設定を引きつげる。現在の FSS の内容についてはすでに稼働できることを確認済みで親和性十分。ただし、大会ごとに契約する必要がある。

3. ベンチャー研究会について (資料 212-2 : 片上、堀口)

資料 212-2 「あいまい動的状態推定研究会」の設置を意義なく承認した。次年度総会 (6 月) 以降に設置。1 年ごとに更新手続きをとることとする。

4. SOFT-CR について[継続] (含 : ファジィ学問塾の資料公開) (三河、堀口)

ファジィ学問塾の資料公開について準備の進捗が報告され、作成したビデオ (2 次著作物) の公開について、法的な問題がないか前広報担当の関先生に問い合わせを行うとともに、引き続き公開に向けて準備を行うこととした。

SOFT-CR については現時点では進捗が見られないため、次回以降に引き続き検討を行うこととした。

5. 学会法人化についての検討 (資料 212-3: 林)

資料を基に林副会長より説明があった。法人化のメリットと、そのために必要な負担 (年間 30-40 万円のコスト、定款の作成など) が説明された。その上で、今他に学会本体の「中身」の改善に力を割くことが必要な時であるため、「器」の改訂は優先度は相対的に低くなると意見の一致を見たため、今後継続審議とすることとなった。

6. 日本学術会議協力学術研究団体実態調査 (設立趣旨の記載) (資料 212-4: 川本)

ML にて審議済み。資料の案を元に回答することとなった。

7. IEEE Fellow ノミネートについて (資料 212-5: 萩原)

今後学会 ML に推薦者が出れば、金久保理事より推薦することとなった。

8. 文献データベース委員会からの寄付金の使い道について[継続]

(資料 212-6: 前回資料 211-8:金久保)

案に出てきた内容に沿って、理事会で適宜、適切に支出していくこととした。

9. SOFT 研究推進支援事業(前理事会からの引き継ぎ[継続])

(資料 212-7:前回資料 211-9:片上)

資料の原案では、利用者があまり見込めず、効果に疑問があることから、

(萩原) 他学会から学会誌に寄稿してもらう

(彌富) 若手研究会 ANGLE への支援 (交通費、会議費、食費など) の案が出された。

再度、将来構想委員会で具体的な議論をしてもらうこととした。

10. 掲載料の消費税について (資料 212-8:川本)

消費税が 10%になる 2017 年 4 月に向けた議論。これまでは消費税が 8%にあがっても、値上げせず、税込み 5%の金額で実施してきた。

議論の結果、請求金額は投稿時のものとし、2017 年 4 月までは現状の表記のまま、2017 年 4 月より、税抜き表示にすることとした。

ただし、税込み表記から税抜き表示に変わることについては、説明が必要との指摘が林副会長よりあった。

11. 14 期後期活動に向けて (含 総会準備)

A 事業(FSS, 研究会等)

B 広報 (論文誌、学会誌、web)

- ・ 各事業については引き続き検討を行う。広報については特に対応が必要である。
- ・ 学会の重要なアウトプットである学会誌の内容を充実させたい。特集を 2 本立てにするなどもいいのでは。重要な事柄のため、論文誌、学会誌については多少赤字でもいいのでは (萩原)
- ・ 編集委員会を「学会誌」担当と「論文誌」担当を組織的に分けることが望ましい (川本) <2017 年の年明け (2 月号) の論文誌をめどに分離したい>

(理由)

論文誌は掲載のタイミングが投稿に応じて一意に定まるが、学会誌は、依頼原稿などの遅れで全体の遅延につながっている。また企業の方に、論文誌を担当していただくのは困難な面がある。学会誌には、企画を立ててくれる人材が欲しい。論文誌では、査読者を組織的に選べる体制が必要。今はあらゆる負担があるが、適切な分業ができれば効率化が図れる。いずれにしても、どうやってマンパワーを増やすかが重要。

メリット：リスク分散、柔軟な体制が組める、現状論文誌で TeX が使えない。分けると出版のフローがスムーズになる

デメリット：参加する会議が2倍に増える

→会議は当初「学会誌」「論文誌」の合同委員会でやっても、担当をはっきりさせることで対応できる。一部の人は両方に引き続き参加することになるが、まずは現状に近い形で実施することを念頭に編集委員会で検討することとなった。

- ・ 学会誌：ページ数自体は変わっていないが現状とても薄い。解説特集などの企画があれば増やせるが、今は組織だって動けていない。特集のアイディアと、実働部が必要だが、現状では両方とも足りていない。対談記事を載せる（中川）、ユニークな企画を取り入れる（萩原）などのアイディアも出された。解説記事を増やし、学術的な内容を増やしていくことを目指すこととした。

- ・ 学会誌、論文誌の扱う業者について
現状、論文誌で TeX が使えない、反応があまりに遅い、メールの見落としなど問題があまりに多く、遅延の大きな原因となっている。業者の変更についてまずは論文誌から検討することとした。

12. 平成 26 年度学会ロードマップの作成について[継続]（萩原、林）

上記の議題 11 と同様の内容のため、省略した。

13. 次回理事会の開催について

後日 ML 上にて決定することとした（後日 3/13（日）13:00- 同会場と決定）

14. その他

学会 web について（三河）

現状の古いシステムで問題が出ており、更新についての議論となり、以下のようにまとまった。

- ・ 新 web 構築の業者を選定し、日常的な更新は学会が行うこととなった。更新に編集委員会、各研究部会（の支部長）などが関われるように権限を与えた方がいい（林）という意見も出たが、編集できる権限は絞った方がいい（星野）という意見も出された。アクセスできる権限については、今後広報委員会で検討することとした。
- ・ 各研究部会の内容を webpage に明記する。
- ・ よくできた学会のページを参考にする。
- ・ 1 年間の学会行事（「イベント案内」「カレンダー」）が見渡せるような内容を掲載する

- ・ 3月末に事業計画書を掲載、その内容を掲載する。
- ・ 総会までに公開できるように簡単なタイムラインを作成する。

詳細の議論の概要は以下の通り：

(星野) 新 web 構築について、時間を(適切な額なら)お金で買えるなら業者に頼んだ方がいい。立ち上げと運営が別であることが大事

(林) 大切なのは、担当理事が変わった際に、更新の操作方法について引き継ぎがスムーズにできることが重要。長期的には業者の方がいいのでは

(萩原) 更新のスピード、即応性が大切。複数の担当で更新を行えば、遅延が減るのでは？

(林) 各組織(編集委員会、各研究部会(の支部長))が更新の権限を持てばいいのでは？

(星野) 編集権限は限られた人にした方がいいのでは

(金久保) 構築は業者に依頼し、更新は各委員会および責任ある監督下で学生が行うのがいいのでは。

(星野) 業者を十分にコントロールしておく必要がある。

(堀口) 各研究部会の活動内容を掲載する。

報告

1. 第2回将来構想フォーラムについての報告(資料 212-R1: 前回資料 211-R5: 片上)
(注: 212-R1 の添付資料誤り) 報告の時間がとれなかったため、次回に再度報告
次回までに片上理事が総会用資料を作成することとなった。
2. FSS 開催サポート体制の整備について[継続](資料 212-R2: 堀口、橋山)
3. 会誌発行計画(資料 211-R3: 川本)
4. IEEE SMC2018 共催について(資料 212-R4: 堀口)
SOFT 以下の事業委員会による委員会の設置が不要であることが報告された。
5. 国際誌購読価格について(資料 212-R5: 林)
6. 2015 年度名誉会員の選定と名誉会員の公表に関して(資料 212-R6: 林)
毎年9月までの理事会で委員を選定し、12月号に掲載することとした。
決算報告(2015 年度 10~11 月の月次決算、FSS2015 決算)(資料 211-R6: 金久保)
7. 会員数について(資料 212-R7: 金久保)
8. その他
特になし